



De bellis ciuilibus

APIANUS

Venetis : 1500

アッピアヌス『内乱』

アッピアヌス (APPIANUS, 2c) はエジプトのアレクサンドリア生まれのギリシア人の歴史家で、ローマ帝国が建国間もない頃にローマに市民権を得て移り、トラヤヌス帝、ハドリアヌス帝、アントニヌス帝に執政官として仕えた。

本書は、ギリシア語で書かれた彼の主著『ローマ史 Romaika』のラテン語訳である。訳者はクリストフェルム・デ・ペンシス (Christoferum de PENSIS) で、1500年にヴェネツィアで印刷された。全部で24巻であったが、現在では11巻と断片が残っているのみである。その内の6巻はローマの内乱を扱ったものである。

本書ではローマの革命期をとりあげてグラックスの農地法、マリウス、スラの権力争いなど取り上げている。文体も内容も特に優れたものではないが、内乱の時代を記したのものとして貴重な資料といえる。『ローマ史』は後のギボン (Edward GIBBON, 1735-1794) に影響を与えた。